

令和6年度業務執行報告

[令和7年6月1日 HP 掲載]

I、法人運営の概要

II、事業執行の内容

- ・教育目標及び基本姿勢
- ・当該年度の事業概要
- ・事業の目的計画と実施
- ・実施計画の進捗状況等
- ・認定こども園事業
- ・職員研修（園内、園外）
- ・情報発信の状況

III、学校評価について

- ・職員自己評価、職場環境評価結果
- ・学校関係者評価の内容

IV、財務状況の内容

学校法人内丸学園 幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

令和6年度・事業報告書

I 法人の概要

- 1、法人名： 学校法人内丸学園
 2、理事長： 坂本 洋
 3、住所： 岩手県盛岡市中央通1丁目6-47
 電話：019-622-2301 Fax: 019-622-1819

4、設置する学校

- 名称： 幼保連携型認定こども園 盛岡幼稚園
 認定こども園（認定月日：平成19年2月27日）
 類型：・幼稚園型（当初は認可外保育施設併設）
 ・幼保連携型（平成22年4月1日認定）変更
 ・ 〃 （平成27年4月1日新制度移行）

備考：22年度から0歳児～2歳児は保育所認可【定員21名】、23年度【定員30名】となる。平成27年4月1日から子ども・子育て支援新制度により、従来の幼稚園・保育園が単一施設となり、3号子ども定員30人から42人へ変更。幼稚園学校教育部分は4学級105人。内訳1号子ども定員45人、2号子ども60人へ変更。合計：147人。令和2年度から3歳以上児の定員変更：1号子ども30名。2号子ども75名とする。令和6年度も上記の定員変更のままで運営。

5、学級編成と定員並びに実績（認定こども園定員：147名）令和7年3月1日現在

項	5歳児学級	4歳児学級	3歳児学級	計
定員	1学級	1学級	2学級	4学級
	35名	35名	35名	105名
令和6年度実績	1学級	1学級	2学級	4学級
	29名	27名	27名(満3歳0名)	83名
	保育【0歳～2歳 定員42名】0歳：9, 1歳：18, 2歳：17			44名

127名

6、認定こども園受入れ実績状況（認定こども園定員：147名）令和7年3月1日現在

入園対象の認定	3～5歳児(満3含)	0～2歳児	計
1号	13名		13名
2号	70名		70名
3号		44名	44名
計	83名	44名	127名

7、法人役員・教職員の概要

理事 7名：理事長1名、理事長代行者1名、理事他5名

(理事長：坂本洋、理事長代行者：松本静毅、理事：津川哲二、荒木田一男、関 雅彦、中原陽子、坂本信行)

評議員 15名：寄附行為24条(1) 4名、24条(2) 3名、24条(3) 8名

開催内容：理事会5回、評議員会2回、監査会・外部2回、法人監事2回 計4回

理事会	① 5月25日、②7月30日、③12月23日、④1月25日、⑤3月28日
評議員会	① 5月25日、②1月25日、
監査会	① 5月17日、②5月22日(法人)、③1月30日、④2月6日(法人)

学校関係者評価委員会：年1回(令和7年3月19日) 評価内容は別添(P15)のとおり。

苦情解決第三者委員会：年1回(令和7年3月19日) ”

教職員 33名：園長1名、副園長1名、主幹保育教諭1名、指導保育教諭3名、
保育教諭13名、保育教諭(非) 6名、看護師(非) 1名
栄養教諭1名、栄養士1名、調理師2名、調理補助 1名
事務職員2名、 【年度中、産休・育休者3名】

II 事業執行の概要

1、教育目標及び基本姿勢

(1) 教育目標

生命力にあふれる子ども達が、愛情と活力と創造に満ちた生活をめざし、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験が得られるよう教育環境を整え、一人ひとりの心情・意欲・態度の発達を養い、基礎的人間性の土台となる、生きる力や心の教育の育成を目標とする。

また、東日本大震災による被害状況が、かつて経験したことのない甚大な被災となり、これまでの危機管理対応を根幹から見直すこととなり、かけがえのない子ども達一人ひとりの命の大切さを改めて教育の根底に据え、安心安全な環境づくりに努めること。

(2) めざす子ども像

園 訓： つねによるこぶべし(いつもにこにこ)

- 健康でたくましい子ども
- よく聞きわかり行動する子ども
- すなおに感じ豊かに表現する子ども
- 心身ともに安定した生活を送れる子ども
- 神と人ともに喜ばれる子ども

(3) めざす教師の役割像

- 幼児一人ひとりが、より豊かに遊び、学ぶ生活を過ごせるよう援助する
- 集団生活の中で生きる力、喜びの広がりが育つ環境づくりに配慮する
- 自律と協同の育ちに配慮し、協同的な遊びや学びの環境構成を工夫する
- 総合的な教育と保育の一貫した幼児教育の保育計画づくりに配慮する

(4) 教育目標達成のための基本姿勢

- 型にはめない自由な個性の伸長 (個性重視)
- 遊びの十分な保障と充実感 (満足感と承認充足)
- 感性や情緒性豊かな環境づくり (夢のある環境)
- 愛情に満ちた子どもとのかかわり (愛着心の育成)
- 善悪の判断基準の適切な指示 (社会行動規範の明示)

2、当該年度の事業概要

運営基本方針に基づき、教育目標の達成に努め個性豊かな教育・保育の実現に努力しております。特に「こども家庭庁」創設による幼保一元化に伴う訂教育・保育要領に基づく教育指導計画の実施は、本年も引き続き幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を意識し、0歳児から5歳児までの全体指導計画を作成する中で園内・園外研修で培った内容を教職員全員で共通理解を深め実践に生かすことに努めました。

なお本年も当法人の幼保連携型認定こども園・盛岡幼稚園運営規定による豊かで快適な教育・保育生活環境の実現となり、園児の更なる活発な活動が観察された。

感染症拡大予防対策改正の5類移行に伴うコロナ禍対応はマニュアル徹底に努め、日々の健康観察、保育室や遊具の消毒などを徹底しながら、集団感染予防に努めた。子ども達も手指消毒、手洗いうがい等、基本的な生活習慣を継続した。

運動会や保護者参観、作品展示、クリスマス会等は内容を工夫しながら、保護者が参観できる機会を増やし、園の教育・保育活動への理解となるよう継続している。

また専門性資質向上の職員研修の充実を図り、かつ小学校教育への架け橋プランのため仁王小学校教諭4名の来園のもと協議会を持った。なお、令和3年以降に岩手県庁内保育施設・うちまる保育園(小規模事業所内保育事業)開設に伴う連携施設としての覚書締結による交流は継続して行われている。

◎ (主な行事等)

4月：始業式、第117回入園式、こいのぼり掲揚式 **5月**：避難訓練、健康診断、タッピングの畑、ふたば会総会 **6月**：歯科検診並びに健康診断、花の日礼拝、保育参観と懇談会、プラネタリウム見学、卒園生の集い **7月**：薬剤師検査、七夕、プール遊び、お楽しみ会、夏季保育開始 **8月**：夏休み、第二学期始業式 **9月**：シェイクアウト避難訓練、運動会、歩き遠足 **10月**：作品展 タッピングの畑芋ほり、盛岡りんごイベント、**11月**：収穫感謝礼拝、焼き芋会、トトロランド、小学校体験学習、保育参観 **12月**：防犯訓練、クリスマス礼拝、冬休み、**1月**：始業式、観劇・劇団クスクス、**2月**：保育参観・懇談会、**3月**：親子茶会、お別れ会、修業式、第117回卒業証書授与式、卒園を祝う会、
(各月の避難訓練を実施した。また各月の園児誕生会では各学年表現活動発表を行った)

◎ 【1号認定・2号認定園児数状況】

3月末在籍：83、卒・退園児数：29、在籍園児数：54 (A)

3月末入園申込み数：31、新入園児数：31 (B)

次年度期首数(A+B)：85名

◎ 【3号認定園児数状況】

3月末在籍：44、卒・退園児数：17、在籍園児数：27 (A)

3月末入園申込み数：16、新入園児数：15 (B)

次年度期首数(A+B)：42名

◎ 幼保連携型認定こども園・盛岡幼稚園：次年度期首合計数：127名

3、事業の目的計画と実施

幼児教育の専門性資質向上及び幼児一人ひとりの育ちを保障する保育理念のもとに、ふさわしい教育環境をもって、幼児の心身の発達に応じた豊かな体験と感動に満ちた教育活動を計画立案し、加えて幼保一体化の認定こども園事業を積極的に取り入れた運営を実施した。また一昨年の創立115周年の記念事業実施の完成により、より充実した環境整備となり、創立時の建学の理念を振り返る機会を意識して、園児と共により多くの諸行事を実施した。

◎ 質の豊かな食育・給食提供のため、3号園児への自園給食調理機能の充実を基本とし、また1号、2号園児への完全給食提供のため給食調理室稼働の充実を図り、園児への食育指導の計画案を作成し実施した。

◎ また、個別的配慮を要する園児は保護者の要請により5名（精神発達遅滞2名、精神遅滞境界域2名、自閉スペクトラム症1名）の受入れとなり、健常児の中で持てる能力の成長に留意し、個々の支援計画を作成し職員の共通理解を深め、療育センター等関係機関との支援のもと丁寧な関わりに努めた。また園内研修で特別支援の共通理解に努めクラス担任の他に補助教諭を配置し合理的配慮を要する子ども指導を強化した。

◎ なお、教育課程外の預かり保育（家庭部保育）は、認定こども園事業実施の中で継続して実施している。詳細利用実績は下記記載5、の通り。

◎ 新制度移行の当園の経過は、認定こども園として、平成19年2月27日付けで岩手県第一号の認定。当初は幼稚園型であったが、平成22年4月からは、認可保育園として、0歳児を加え認可保育事業として実施しており、また子ども子育て支援新制度以降は、改めて幼保連携型認定こども園として、単一施設としての『盛岡幼稚園』を更に前進させている。

◎ 本年度の3号認定児の入園受け入れ実績は、令和6年4月初日在籍41名(0歳児:5名、1歳児:18名、2歳児:18名)とほぼ定員状況。新年を迎え令和7年3月には、在籍数44名(0歳児:9名、1歳児:18名、2歳児:17名)と定員(42名)を上回る在籍数で、特に0歳児は昨年同様に6名定員のところ9名在籍となった。これは入園許可認定を行う盛岡市福祉行政当局から待機児童解消のための要請によるものです。

4、事業実施計画の進捗状況等

計画された教育・保育活動は、感染症拡大予防対策改正の5類移行に伴うコロナ禍対応の徹底に努め年度計画所期の目的を達成するよう目指し、個人の発達に応じた生きる力や心の教育の育成並びに保育養護の向上に貢献した。

特に教職員の自己点検意識が高まり、客観的に自らの指導計画や子どもに向き合う姿勢

並びに教職員集団の力として、昨年に引き続き園内研修実施等がより発揮できる体制の確立となっている。

なお、東日本大震災以来、危機管理対応の見直しを行い、また感染症予防のマニュアルの徹底等により3密回避による教育活動内容や、保護者参観等の見直しを図り、子ども主体優先の行事となるよう実施。このことは保護者へも伝え共通理解を深め、ご協力・情報の共有に努めている。

- ◎ 盛岡幼稚園 **教育実施日数**：年少クラス、年中クラス、年長クラス 41週
3歳児(193日)、4歳児(193日)5歳児(196日)
- ◎ **保育実施日数**：・0歳児～2歳児 293日 ・3歳児～5歳児 293日

5、認定こども園保育事業（預かり保育）

(1) 預かり保育推進事業の実績数

	満3歳児	3歳	4歳	5歳	計
2号認定利用児	0	24	23	25	72
1号認定利用児	0	0	0	0	0

3歳児から5歳児の月平均利用は62名（昨年62名）。その内、2号認定児は72名で全員標準時間利用児であった。なお、臨時的利用児は、月平均6名の実績となった。

預かり保育の1号・2号児の保育指導状況は、臨時の預かり保育利用児を含め、3歳児、4歳児、5歳児各年齢児を各担当職員の掌握日課で実施した。

特に5歳年長児は6月以降の午後保育中の午睡を柔軟に取り入れた保育を行うこととし、幼小接続を意識したアプローチカリキュラムを考慮した教育・保育活動。また、早朝と延長保育は異年齢合同保育として行っている。

また、土曜日保育利用は2号児のみ、年間利用実績数303人、月平均25人、週平均6～8人で異年齢合同の処遇としている。（3号児の保育は、別室の別処遇である）

◎年間開設日数：教育日数は年長児クラス196日及び、土曜日：延べ利用数345名、月平均29名（昨年203名、月平均17名）、春・夏・冬休みの実施を入れ293日開設した。

◎ 子育て支援事業（トトロハウス）：週1回、年間開催回数22回、登録者数：14名年間74組の利用。一回平均参加者数3.4組（昨年2.7組）昨年より多い利用。【親子参加、費用無料、前日までに申込み】 *昨年5月から5類に移行しコロナ制限解除した。

(2) 子育て相談事業：相談件数は82件（昨年88件）、一般：2件（昨年0件）、園児（子育て支援事業参加者）保護者：80件。相談者は殆どが母親であるが父親6件、両親3件と、父親も相談参加する傾向が見られた。

- ・相談内容：しつけ・育児が21件(22%)、排便排尿が8件(10%)、発達・障害14件(17%) 食事10件(12%)、友達とのトラブル5件(6%)、その他13件(16%)の内容であった。自己主張、わがままや癩癩、兄弟喧嘩などの対応についてが多かった。

- ・相談対応：継続観察48件(59%)、助言指導34件(42%)、専門機関紹介0件(昨年2%)。面談相談が多く(9割)、助言指導が4割を占め、6割の継続観察ケースは、しっかりと見守り以後の観察報告を丁寧に実施した。

6、令和6年度 職員研修実績

(1) 令和6年度 園内研実施報告

* 研究テーマ

『遊びが深まる環境構成と、育ちの連続性』

日程	内容	記録
4月23日(火) 14時～	・ 昨年度の園内研修の振り返りと今年度のテーマについて ・ 各学年の様子(遊びの興味関心や保育者の援助)	竹岡
5月16日(木)	・ 気になる子どもや、合理的配慮が必要な子どもについて 【特別支援・教育相談係】	中村
6月20日(木)	・ 環境構成について共通理解する。 ・ 各学年の遊びの姿や環境構成について	石田
7月18日(木)	☆ 幼児教育専門員訪問支援事業 岸隆子先生 保育参観(3・4・5歳児)とカンファレンス	新沼
8月20日(火)	・ 仁王小園訪問、幼小交流について報告 ・ 水遊びの環境構成について(育ちの連続性)	齋藤 (由)
9月25日(水)	☆ 幼児教育専門員訪問支援事業 千葉満佐子先生 保育参観(0・1・2歳児)とカンファレンス	村松
10月15日(火)	・ 今年度の研究テーマに沿った事例の検討 4歳児: 運動会を通しての育ち	阿部
11月12日(火)	3歳児: 焼いもごっこ	林崎
12月24日(火)	0歳児: ダンスごっこ	齋藤 (純)
1月21日(火)	・ 研究のまとめ	相原
2月28日(金)	・ 気になる子どもや、合理的配慮が必要な子どもについて 【特別支援・教育相談係】	瀧山
3月	・ テーマに基づいた研修のまとめ、全体の評価・反省 ・ 次年度に向けて	研修担当

【非常勤職員の研修】

- ① 5月23日(木) … 合理的配慮を要する子について
- ② 1月30日(木) … 園内研修の内容や経過を共通理解する
- ③ 3月17日(月) … 合理的配慮を要する子のその後の経過と支援計画について

○ この他にも職員間で話し合いの機会を設け、研修の機会とする。

- ・ 行事や保育活動の検討
- ・ 月案、週案の作成と検討
- ・ 活動や教材の理解と研究など
- ・ 個別支援計画、個人記録、学級経営
- ・ 学期毎の反省と評価

(2) 園外研修実施報告

◎特別支援に関する研修会

□保幼小連携に関する研修会

○その他

日程	研修会（主催者）	研修内容
5.10	○令和6年度幼児教育中核リーダー養成研修講座Ⅰ（いわて幼児教育センター）	・岩大附属幼稚園保育参観 ・講義「園内研修の進め方と中核リーダーの役割」
5.30～ 31	○幼稚園等初任者研修講座 センター研修Ⅰ（岩手県教育委員会）	・講義「初任者に望むこと」 ・講義と参観 ゆもと幼稚園保育参観等
6.1	○令和6年度第1回新任教諭研修会（岩手県私立幼稚園認定こども園連合会）	・講演「幼児教育・保育の重要性」 ・講演「幼児教育の役割と質を考える」
6.3	○令和6年度岩手県健康セミナー（岩手県保健福祉部）	・講演「気候変動と熱中症、熱中症に気を付ける気象条件」 ・講演「熱中症 もしも周りに誰もいなければ」
6.4	◎令和6年度子どもの発達支援講演会（岩手県立療育センター）	・講演「子どもの支援を一緒に語る『ことば』について考える ～行動分析という『ことば』の可能性～」
6.11	□令和6年度 保育所・幼稚園・小学校交流会（盛岡市教育研究所）	・説明「岩手県幼児教育推進体制に係る説明および盛岡市幼小接続プログラム・カリキュラムに係る説明」 ・講義「架け橋期の教育の充実に向けて」
6.13	○令和6年度保育者レベルアップ研修講座ステップ1（いわて幼児教育センター）	・講義「幼児期に育みたい資質・能力と『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」 ・演習「幼児理解に基づく保育実践」等
6.14	○岩手大学教育学部附属幼稚園 令和6年度学年別保育研究会	・公開保育（5歳児）研究協議「心はずませ遊ぶ子どもを育む」 ・講演「“楽しい！”があふれる保育を目指して」
6.14	○幼保連携型認定こども園飯岡こども園 公開保育（盛岡市保育所協議会）	・公開保育テーマ 「ワクワクする気持ちを育む 主体的な保育の実現を目指して」
6.19	□河北小学校 令和6年度幼保小交流会	・授業参観 ・交流会（意見交換）
6.21・ 22	○第31回全日私幼連東北地区設置者・園長全国研修会	・記念講演「日本の進路と幼児教育への期待」
6.26	◎岩大附属特別支援学校 第1回支援部学習会	・講義と演習「不器用さに課題をもつ子どもの特徴と運動メニューの考え方」
7.9	○就学前教育施設管理職研修講座（いわて幼児教育センター）	・講義「岩手の就学前教育の充実に向けて」 ・講義「園におけるカリキュラムマネジメント」
7.10 7.12	◎令和6年度 発達支援研修会（岩手県立療育センター） Zoom オンライン	・講座1「ことばの遅れが気になる子どもの理解と支援」 ・講座2「遊びの役割を再確認しましょう」
7.12	○盛岡市保育所協議会 第1回テーマ別研修	・講演「生き物の世界を知る」 「子どもと自然を楽しむために、保育者に必要な自然の知識」

7.13	○第4回新任教諭研修会 (岩手県私立幼稚園認定こども園連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「乳児保育の環境」 ・講演「豊かな経験と学び」
7.17～ 19	○幼稚園等中堅教諭等資質向上研修講座 (いわて幼児教育センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「幼稚園等中堅教諭等に望むこと」 ・講義「幼児期の教育の現状と課題」等
7.23	○令和6年度第1回子ども・子育て会議 (盛岡市)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期盛岡市子ども・子育て支援事業計画の取り組み状況
7.26	□幼保小の学びをつなぐ研修会 (いわて幼児教育センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・説明「幼児教育と小学校教育をつなぐカリキュラムの作成」 ・講演「幼保小の架け橋プログラムを踏まえたカリキュラムマネジメント」等
7.27	○第1回教員研修会 (岩手県私立幼稚園認定こども園連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「3歳児からの幼児教育に繋がる0.1.2歳児の保育」 ・講演「食物アレルギー対策『基本のき』」 ・講演「個別の支援計画について」
8.1	◎盛岡市教育研究所公開講座 特別支援講座I (盛岡市教育委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「巡回相談について」「就学に関わる相談について」 「校内で行なう支援と教育相談について」
8.5	○幼児期の言語教育研修講座 (岩手県ことばを育む親の会)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「こどもの言葉を育てるかかわり」 ・分科会「ことばを育てる遊び～訓練に役立つおもちゃ作り」
8.9	□令和6年度岩手県幼児教育研究協議会 (岩手県教育委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「架け橋期を見通した保育におけるカリキュラムマネジメント」 ・研究協議
8.9	◎盛岡市保育所協議会 第2回テーマ別研修	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「様々な特徴を持つ子どもへのかかわりと対処方法 ～褒め言葉と注目の力～」
9.3～5	○幼稚園等初任者研修講座 センター研修II (岩手県教育委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習「保育記録の整理と評価」 ・保育参観 岩大附属幼稚園 等
9.11	○盛岡市児童福祉関係機関職員研修会 (盛岡市子ども未来部)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政説明 ・講義「要支援・要保護ケースへの虐待予防・危機介入について」
9.13	○盛岡市保育所協議会 第3回テーマ別研修 (盛岡市保育所協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と実技実践 「乳幼児の一時救命処置の講義と実践 ～窒息について～」
9.17	○感情コントロールの力を育てる教師のかかわり研修講座 (岩手県教育委員会主催)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「感情コントロールの力はどのように育つのか」 ・講義と演習「感情コントロールが難しい児童・生徒への対応」
10.2	○盛岡市保育所協議会 公開保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観 「アイリスタウンへようこそ！」
10.5	○盛岡市保育所協議会 体育実技研修	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「共観から共感へ～つながりあそびを子ども達と楽しもう～」

10.9	○社会福祉施設等における感染症予防研修会 (盛岡市保健所)	・講話「施設等における感染症予防について」
10.18	○保育者レベルアップ研修講座ステップ2 (いわて幼児教育センター)	・講義と演習「幼児理解に基づく指導計画」 ・講義と演習「幼保小接続を踏まえた指導と評価に生かす記録」
10.18	○東北地区私立幼稚園認定こども園教員研修大会	・認定向山こども園「子どもの主体性について」 ・幼保連携型認定こども園やかまし村「遊びの中の学びの検証」
10.25	○盛岡市社会福祉協議会 第4回テーマ別研修	・講義「『かけがいのない自分』であることの気づきのお手伝い」
10.30 ～ 11.1	○幼稚園等初任者研修講座 センター研修Ⅲ (岩手県教育委員会)	・講義と演習「指導要録の概要・記録の実際」 ・講義と演習「充実した園生活のための環境構成・援助」
11.8	○岩手県保育技術研修会 (岩手県教育委員会)	・講義「資質能力を育む指導計画 ～架け橋期を見通して～」 ・講義と演習「園内の特別支援教育の体制と関係機関との連携」 ・講義と演習発達を意識した乳幼児保育の在り方
11.19	○新任保育士就業継続支援研修会 (岩手県社会福祉協議会)	・講演「保育所職員としての自覚と保育現場のこれからの課題」 ・講義「職場の問題解決、リアリティショックへの対応」
11.21	○令和6年度幼児教育中核リーダー養成研修講座Ⅱ (いわて幼児教育センター)	・実践交流と演習「今年度行った園内研修の実践交流」 ・講義と演習「指導の改善に生かす教育評価の手法」等
11.22	○盛岡大学附属幼稚園 ECEQ 公開保育	・保育公開と協議
11.29	○岩手大学附属幼稚園 令和6年度学年別保育研究会	・主題「心はずませ遊ぶ子どもを育む」 ・講話「主体的な遊びを促す幼児教育理解と援助」
11.29	○盛岡市社会福祉協議会 第6回テーマ別研修	・講演「災害への備えと危機管理 ～乳幼児の避難生活～」
11.30	◎盛岡市乳児総合診査事業(もりっこ健診)40周年記念講演会	・講話「親支援プログラムの基本と概要」 ・講話「わらしっこ教室におけるふれあいペアレントプログラム」
12.19	□令和6年度岩手県幼児教育フォーラム (いわて幼児教育センター)	・基調講演「非認知能力を育てる」 ・パネルディスカッション
1.9～ 10	○令和6年度 総合研修会 (岩手県私立幼稚園認定こども園連合会)	・講演「感じる発達障がい」 ・講演「リーダーシップの理解について」等
1.24	○盛岡市保育所協議会	・講演「保育を語る～質の向上の『質』を問う～」
2.7	◎盛岡市障がい児教育推進協議会実践交流会・研修会	・実践発表 ・講演「集団生活や他社との関わりに困りを感じ

		やすい子どもの理解と支援」
3.25	○教育委員会 (岩手県私立幼稚園認定こども園連合会)	・講演「架け橋期を考えた幼保小の接続・連携について」 ・研究発表 グループ討議
*	○盛岡地区教員研修会 月1回(全8回)	・テーマ「子どもと共に作り出す環境構成」 「多様な子どもの受容とクラスの子どもの育ちを考える」

※園外参加研修については、復命書の回覧にて全職員で共有。

7、情報の発信の状況（公表・公開）

(1) 園報の発行：年5回発行。発行部数250部。法人及び園内情報。

送付先は、保護者（110部）、同窓生、関係機関他（140部）

(2) その他の情報発信

幼稚園便り(全世帯)：10回(保育の様子を写真付きで載せるようにしている)

保育部便り(0・1・2歳児世帯)：12回(毎月1回発行)

学年便り：年長児クラス19回、年中児クラス13回、年少児クラス13回

給食便り(毎月)、ほけん便り：年9回

県PTA連合会会報：2回、こどもまんなかしんぶん：紙ベース6回、デジタル版4回、

あんふあん：5回

(3) インターネット・ホームページ：幼稚園の沿革及び業務内容の紹介。

園児活動状況の随時紹介 Web お便り 16回、にこにこ園日記 28回発行は好評。

また、業務執行・年度状況の報告(財務状況を含む)を公表。

アドレス：<https://1907-mkg.com>

おがスマ配信：33回(主に欠席状況、行事等の情報配信)

III 学校評価について

平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表に関する規定が新たに設けられました。当園では、教職員による業務の自己点検・自己評価は、平成20年度から実施しております。

また平成27年度の新制度施行によって、当園は幼保連携単一施設となり、従来の幼稚園のみに設置されていましたが『学校関係者評価委員会』、及び保育園にのみ設置されていましたが『苦情解決第三者委員会』を、単一施設として両委員会を設置し、学校関係者評価委員会及び苦情解決第三者委員会を合同で委員会を開催し、本園の運営並びに経過について評価を頂き今後の運営に資することにしております。

なお令和6年度は、保護者アンケートは実施しませんでした。教職員の自己評価及び職員による職場環境アンケートの実施結果を公表します。

1 保育部・幼稚園部

- ねらい ○職員一人一人が教育・保育活動を振り返り、評価し、課題を把握する。
 ○令和7年度の計画立案のための資料とする。
- 評価基準 4 よくできている(自分として取組みに満足している) 3 できている
 2 どちらかといえばできていない 1 できていない
- 3.7以上 □ 2.9以下

項目	番号	設 問	評価点		
			保育部	幼稚園	合計
1 職員意識疎通及び職員資質向上	1	保育部・幼稚園部会を定期的に開催し、職員間の連携や情報共有がなされている	3.5	3.2	3.3
	2	日々の教育・保育に必要な情報は職員間で共有できている。	3.4	3.3	3.3
	3	報告や連絡、相談をするように心がけている	3.7	3.4	3.6
	4	職員会議の内容は参加できなかった職員にも様子が伝えられている	3.1	3.1	3.1
	5	自分が休んだ日の出来事や連絡・注意事項は尋ねて理解するようにしている	3.5	3.3	3.4
	6	職員が抱えている課題は主幹や指導教諭等に伝えている	3.4	3.3	3.3
	7	指導面での疑問や悩みについて相談・助言が受けられる状況にある	3.4	3.3	3.3
	8	指導助言で得られた解決策を日々の教育・保育にいかすように心がけている	3.7	3.4	3.6
	9	保育部・幼稚園部・家庭部との連携に努めている。	3.1	2.9	3.0
	10	園外研修に進んで参加し、専門知識や技術の習得に努めている	3.4	2.9	3.1
	11	保育雑誌・専門誌等を読んだりしながら、自己研鑽に努めている	3.2	2.8	3.0
	12	研修で学んだことを日常の実践にいかすよう努めている	3.3	3.2	3.2
	13	園内研修の内容は日々の教育・保育活動の推進向上に繋がっている	3.5	3.3	3.2
1の項目の評価点平均			3.4	3.2	3.3
2 教育保育課程指導計画	14	教育・保育課程のねらいや内容は、発達過程や個人差を踏まえた内容になるよう工夫している	3.3	3.2	3.2
	15	教育・保育課程は地域の特性や園の特色を生かしたものになっている	3.2	3.1	3.1
	16	日々の教育・保育活動は10の姿を意識して行っている	3.4	3.1	3.2
	17	指導実施評価は毎月定期的に行っている	3.2	3.1	3.1
	18	指導計画の評価や立案はクラス職員で話し合いながら行っている	3.5	3.0	3.2
	19	指導計画による実践の評価は次の計画作成にいかしている	3.5	3.2	3.2
2の項目の評価点平均			3.4	3.1	3.2
3 子供受容理解	20	子どもの要求などに対して適切に対応している	3.4	3.3	3.3
	21	表現する力が十分でない子どもの気持ちを受け止め、どのように言葉で表したらよいか工夫しながら適切に対応している	3.3	3.4	3.3
	22	多様な子どもの興味関心を把握しながら、遊びの素材や環境を工夫している	3.2	3.4	3.3
	23	配慮を要する子に対する指導が職員間で共有されている	3.5	3.3	3.4
	24	0歳から5歳までの子どもの発達の理解に努めている	3.3	3.3	3.3
	25	園報や他のクラス便り・Webにも目を通し、実践にいかしている	3.1	3.4	3.3
3の項目の評価点平均			3.3	3.4	3.3
4 健康状態把握及び健康推進	26	登園時から子どもの体調の些細な変化や異常に気づくよう心がけている	3.7	3.3	3.5
	27	既往症や予防接種の状況について、保護者から情報が得られるようにしている	3.6	3.4	3.5
	28	日頃から感染症等の情報に留意し予防に努めている	3.5	3.5	3.5
	29	手洗い（トイレ後、遊び後、食前等）等により衛生習慣の習得に努めている	3.7	3.5	3.6
	30	子どもの健康状態に関する情報が関係職員に周知されている	3.5	3.4	3.5
	31	子どもの体調悪化・けがなどについては常に保護者に伝えている	3.7	3.8	3.7
	32	子どもの健康診断結果は職員間で周知し、教育・保育内容に反映されている	3.6	3.3	3.5
	33	子どもの健康診断の結果は保護者に伝えられている	3.8	3.7	3.7
4の項目の評価点平均			3.7	3.5	3.6

5 食事環境・食育推進	34	子どもが落ち着いて楽しく食事ができるよう環境を工夫している	3.4	3.3	3.3
	35	発達に合わせた食事の援助を適切に行うよう配慮している	3.5	3.2	3.3
	36	食べられるものが少しでも多くなるように援助している	3.5	3.3	3.4
	37	職員は子どもの食べる量や好き嫌いを把握している	3.5	3.4	3.5
	38	食育計画を策定している	3.1	3.3	3.2
	39	感謝の気持ちや命を大切にす気持ちを育むよう働きかけている	3.4	3.6	3.5
	40	給食について定期的に職員間で情報交換をしている	3.0	3.2	3.1
	41	子どもたちが育てた作物を給食に活用し、食育の推進に努めている	3.5	3.3	3.1
		5の項目の評価点平均	3.4	3.3	3.3
6 環境整備	42	室内の温度、湿度、換気、採光などの環境は適切な状態に保持されている	3.4	3.6	3.5
	43	園庭の遊具等の安全管理点検が行われている	3.6	3.6	3.6
	44	季節の移り変わりが感じられるような環境構成に工夫している	3.5	3.4	3.6
		6の項目の評価点平均	3.5	3.5	3.6
7 保育活動・人間関係	45	「つねによるこぶべし」という園訓や園の理念を理解し教育・保育活動に努めている	3.5	3.4	3.5
	46	型にはめずに個性の伸長がなされるように配慮している	3.5	3.5	3.5
	47	順番を守る等、社会的ルールが身につけられるように工夫・配慮している	3.5	3.4	3.4
	48	生活や遊びを通して、数や量の感覚が身につくよう工夫している	3.1	3.4	3.3
	49	クレヨン、粘土、紙などを使った活動を取り入れている	3.8	3.6	3.7
	50	絵本の読み聞かせ、お話し、紙芝居などを教育・保育活動に取り入れている	3.9	3.6	3.7
	51	発達に即した教具・教材の有効活用に努めている	3.4	3.4	3.4
	52	屋外活動は地域の環境や自然を活かし、興味関心が持てるようにしている	3.6	3.3	3.5
	53	子ども同士の関係をよりよくなるような言葉がけを行っている	3.5	3.4	3.4
	54	子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるよう働きかけている	3.6	3.3	3.5
	55	発達段階に応じてやる気を育てるような働きかけをしている	3.4	3.3	3.3
56	異年齢の子ども同士が遊べるよう工夫や配慮を行っている	3.5	3.0	3.3	
57	こども園として0歳～5歳児の教育保育活動の交流に配慮している	3.3	3.0	3.1	
58	諸行事の計画・実施・反省が適切に行われている	3.5	3.3	3.4	
59	諸行事の記録は適切に保存され、正しく継承されるようにしている	3.5	3.3	3.4	
		7の項目の評価点平均	3.5	3.4	3.4
8 学校関係者評価及び保護者との連携	60	保護者からの苦情等への対応は適切に行われている	3.7	3.4	3.6
	61	学校関係者評価委員会や苦情処理第三者委員会が開催されている	3.7	3.6	3.7
	62	送迎時の保護者との会話や連絡帳を活用して子どもの様子を伝えている	3.7	3.5	3.6
	63	保育参観を行う等、保護者と子育てについて共通理解できる機会を設けている	3.6	3.5	3.6
	64	保護者の相談に真摯に対応するよう努めている	3.7	3.5	3.6
	65	保護者の相談内容を記録し、教育・保育活動で参考となる内容については他の職員に伝えている	3.5	3.5	3.5
	66	保護者には、園・クラス便り・Webを定期的に発行し、情報を伝えている	3.7	3.8	3.7
	67	保護者アンケートを実施し保護者の思いやニーズを把握している(6年度は未実施)			
	68	保護者から寄せられた意見を教育・保育活動に活かすよう心掛けている	3.6	3.3	3.5
69	園の児童及び家族の情報に関する守秘義務は厳守している	3.7	4.0	3.9	
		8の項目の評価点平均	3.7	3.6	3.6
9 事故対応・危機管理・服務	70	子どもの心身の状態から虐待等不適切な養育環境にないか注意している	3.5	3.7	3.6
	71	事故や天災等が発生したときの対処方法などマニュアルがある	3.7	3.7	3.7
	72	避難訓練・防犯訓練は定期的実施し、非常災害時に保育者として何をなすべきかを理解している	3.6	3.7	3.7
	73	不審者等侵入防止策(出入口、通報システム)が講じられている	3.9	3.3	3.6
	74	園内のヒヤリハット事例を蓄積し、事故の未然防止が心がけている	3.6	3.4	3.5
	75	ゆとりを持って勤務時間に遅れないように努めている	3.4	3.3	3.3
76	必要な時に年次有給休暇は取得できる	3.6	3.5	3.6	
		9の項目の評価点平均	3.6	3.5	3.6
10他	77	英語やダンスで遊ぶ等の取り組みは、子どもたちの心身や情操の発達に良い影響をもたらしている	3.7	3.3	3.6
		10項目(77設問)全体の評価点平均	3.5	3.4	3.4

2 給食部

ねらい

- 職員一人一人の給食に係る活動を振り返り、評価し、課題を把握する。
- 令和7年度の計画立案のための資料とする。

評価基準

- 4 よくできている(自分として取組みに満足している) 3 できている
- 2 どちらかといえばできていない 1 できていない

○ 3.7以上 □ 2.9以下

番号	設問	評価点
1	食育の計画が職員間で共有されている	3.3
2	食育に関する豊かな体験ができるように「食育計画」作成されている	3.3
3	給食従事職員が子どもの食事の状況を把握している	3.3
4	残食調査、検食等を適切に実施し、その結果等を献立に反映させている	3.3
5	年齢や個人差に応じた食事の提供を心掛けている	3.7
6	離乳は発育発達を考慮し保護者との連絡調整を行いながら進めている	3.7
7	アレルギーの対応について、施設内で子どもの状況を把握し、適切に対応している	3.7
8	あらかじめ作成された献立に従って食材を調達し、調理を行っている	3.7
9	アレルギー等対応に関わっては代替食品を適切に準備し栄養量等の確保に努めている	3.3
10	乳幼児期の食の大切さを給食だより等で定期的に保護者に伝えている	3.3
11	献立表や料理レシピ等も保護者に提供し、家庭でも取り組みやすいように努めている	3.0
12	献立は、季節や年間の行事等を考慮し変化を持たせながら計画している	3.0
13	郷土食等も献立に取り入れ、地域の食材等にも関心が向けられる工夫している	2.7
14	給食経費に係る書類(発注書・納品書・請求書・在庫食品受払簿等)は、整備している	3.7
15	検食は利用者の食事提供前に実施し、検食簿も整備している	3.7
16	食器類の材質・種類に配慮するなど、食事環境の配慮を行っている	3.7
17	子どもたちの育てた野菜等の活用を図り、食材への関心の向上に努めている	3.7
18	食品及び食器、その他の設備、飲用水について、衛生的な管理を行っている	3.7
19	調理室の衛生管理は調理施設衛生管理マニュアルに基づいて実施・記録している	3.7
20	保存食は適切に保管している(※原材料、及び、調理済み食品を、食品ごとに50g程度ずつ清潔な容器(ビニール袋等)に入れ、密封し、-20度以下で2週間以上保存)	3.7
21	調理従事者(調乳担当を含む)等の検便は、法令に従って実施している	3.7
22	保護者の食に関する相談に対応できるようにしている	3.7
2 2 設問の評価点平均		3.5

自己評価調査結果と考察

1 保育部・幼稚園部の大項目について

○大項目1の「職員の意思疎通及び職員の資質向上」は平均が全体として3.3で良好な評価。
保育部の3番の日々の業務における「報告・連絡・相談」と8番の「指導助言事項を日々の教育保育活動に活かす姿勢」は3.7と高く、今後もこの姿勢を維持していくことが大切となる。

一方、小項目の9番「保育部・幼稚園部・家庭部との連携に努めている」、10番「園外研修へ参加しての専門知識の習得」、11番「専門書等の読み込み」は幼稚園部で平均が3に及ばない。10番については非常勤職員の研修機会を園外から園内研修等の充実とし改善を図ることが求められる。

○大項目2の「教育保育課程及び指導計画」の平均が3.2で大きな課題はない。

○大項目3の「子供受容理解」は平均が3.3で良好であり、保育部と幼稚園部の差異もほぼない。

○大項目4の「健康面について」は平均が3.6と高い評価であると同時に3.7の評価点が保育部で4項目、幼稚園部も2項目となっており、コロナ禍の経験や日々の感染症予防等や園児の健康管理・推進に細心の注意が払われていることが見て取れた。

○大項目5の「食事環境や食育」は平均が3.3と良好である。大項目6の「環境整備」は平均3.6と高い評価となっているほか、大項目4の「健康面について」と同様に、子どもたちの健康と安全に対する職員の意識が高く、適切な対応に繋がっていると言える。

○大項目7の「保育活動・人間関係」は平均が3.4で良好である。特にも、小項目49番の「読み聞かせ等の活動」は3.7と意欲的に取り組んでいる様子が反映されていた。

○大項目8の「学校関係者評価及び保護者との連携」は平均3.6であった。3.7以上の項目も多い。送迎時や連絡帳を活用して子供の様子報告やおがスマの活用、ホームページで情報更新などを行い、連携に努めていることの現れと言える。守秘義務にも細心の注意が払われていることが読み取れた。

○大項目9の「事故対応・危機管理。服務」は平均が3.6と良好であり、この状況を維持が求められる。

2 給食部について

○全項目の評価点は平均3.5であった。食物アレルギーや年齢、発育発達等に応じた食事の提供は平均が3.7と高いレベルとなっている。食材購入・食材管理・調理環境・衛生面でも同様の状況である。

郷土食、地域の食材への関心を向ける取り組みについては平均が2.7と工夫が求められる。

3 全体のまとめ

◎保育部・幼稚園部の全職員23人による77項目の評価点は平均3.4であった。このことは、職員が運営方針を理解し、積極的に取り組み、その状況に概ね満足していると判断できる。

また、保育部11人が平均3.5、幼稚園(家庭部含む)部12人が平均3.4で、保育部と幼稚園部との間に特に差はないと言える。

課題としては、保育部・幼稚園部・庭部相互の連携を図ること。保育教諭として、専門性向上に向けより一層自己研鑽を図っていくことである。

令和6年度 職場アンケートについて

当園では平成28年度から毎年全職員に対して職場の雰囲気や職場環境及び個人のストレス度をアンケート形式で調査している。それを受けて個人の健康状態の把握や職場環境の改善に努めるため、1学期末の調査後、個人面談を行った。

集計結果

1 仕事に関して最も当てはまるものに○をつけてください

(1) 常勤職員と事務・給食 【評価基準】 1 そうだ 2 まあそうだ 3 ややちがう 4 ちがう

番号	項目	幼稚園部		保育部		事務・給食		各項目毎の平均	
		幼-9名	平均	保-7名	平均	事・給-5名	平均	総数-21名	平均
1	仕事量はとて多いと感じる	18	2	11	1.6	9	1.8	38	1.8
2	職場の仕事の方針に自分の意見が反映できる	16	1.8	13	1.9	10	2	39	1.9
3	職場の雰囲気は友好的である	16	1.8	12	1.7	11	2.2	39	1.9
4	仕事の内容は自分にあっている	18	2	16	2.3	8	1.6	42	2
5	仕事に満足している	18	2	15	2.1	10	2	43	2
6	職場の課題や困ったとき上司に相談できる	12	1.3	12	1.7	11	2.2	35	1.7
7	職場の課題や困ったとき同僚に相談できる	13	1.4	11	1.6	8	1.6	32	1.5
8	必要に応じて有給休暇が取得できる	16	1.8	11	1.6	7	1.4	34	1.6

(2) 非常勤職員 【評価基準】 1 そうだ 2 まあそうだ 3 ややちがう 4 ちがう

番号	項目	幼稚園部		保育部		各項目毎の平均	
		幼-3名	平均	保-4名	平均	総数-7名	平均
1	仕事量はとて多いと感じる	8	2.7	11	2.8	19	2.7
2	職場の仕事の方針に自分の意見が反映できる	7	2.3	7	1.8	14	2
3	職場の雰囲気は友好的である	6	2	7	1.8	13	1.9
4	仕事の内容は自分にあっている	5	1.7	6	1.5	11	1.6
5	仕事に満足している	5	1.7	6	1.5	11	1.6
6	職場の課題や困ったとき上司に相談できる	6	2	6	1.5	12	1.7
7	職場の課題や困ったとき同僚に相談できる	5	1.7	6	1.5	11	1.6
8	必要に応じて有給休暇が取得できる	4	1.3	5	1.3	9	1.3

2 1か月間の自分の体調に関して最も当てはまるものに○をつけてください

(1) 常勤職員と事務・給食 【評価基準】 1 なかった 2 ときどきあった 3 しばしばあった 4 いつもあった

番号	項目	幼稚園部		保育部		事務・給食		各項目毎の平均	
		幼-9名	平均	保-7名	平均	事・給-5名	平均	総数-21名	平均
9	疲れることが多い	17	1.9	14	2	10	2	41	2
10	だるい	11	1.2	11	1.6	9	1.8	31	1.5
11	何をすのもおっくうになる事がある	12	1.3	11	1.6	6	1.2	29	1.4
12	食欲がない	10	1.1	8	1.1	5	1	23	1.1
13	よく眠れない	12	1.3	10	1.4	6	1.2	28	1.3

(2) 非常勤職員 【評価基準】 1 なかった 2 ときどきあった 3 しばしばあった 4 いつもあった

番号	項目	幼稚園部		保育部		各項目毎の平均	
		幼-3名	平均	保-4名	平均	総数-7名	平均
9	疲れることが多い	9	3	9	2.3	18	2.6
10	だるい	6	2	10	2.5	16	2.3
11	何をすのもおっくうになる事がある	4	1.3	8	2	12	1.7
12	食欲がない	4	1.3	7	1.8	11	1.6
13	よく眠れない	6	2	7	1.8	13	1.9

結果の考察

○「仕事に関して(項目1～8)」の調査は、項目1「仕事量」については常勤職員は平均1.8と「仕事量はとて多い」と感じている、一方、非常勤職員の平均は2.7と常勤職員との差が大きい。常勤職員は月案、週案の作成、指導記録整理、報告業務等の事務量も両者の間には差があることも一因と言えよう。他の2～8の項目は職員が日々の職務を遂行する上でストレスなく勤務できる環境にあるかを尋ねたものである。常勤職員及び非常勤職員とも、どの項目も2点台前半から1点台で、マイナス傾向の評価点である3点4点の方向ではないことから、良好な環境と感じていることが判断できる。

○「体調に関して(項目9～13)」は数値が平均で1点台であれば良好といえるが、今回の調査では、2点台の項目が常勤職員では「9 疲れることが多い」、非常勤職員では「9 疲れることが多い」「10 だるい」「11 おっくう」の3項目となっており、他の項でも非常勤職員は1.5点を超える項目が多かった。常勤職員と非常勤職員の年齢差は平均で20歳以上離れている上、教育保育に関わる業務は子どもへの細やかな配慮、一緒に行動する体力が求められていることもこの数値に表れていると考えられる。

○「仕事に関して(項目1～8)」の「仕事量はとて多いと感じる」との関連からも働き方改革についてはさらなる検討が求められているといえる。

3、学校関係者評価委員会 苦情解決第三者委員会報告

○3月19日（水）午後4時～ 2階保育室

○出席者

「学校関係者評価委員」

保護者代表	ふたば会会長	平野 ルミ子
	保育部保護者	蒲澤 理映
学校評議員代表	高屋 一成	／ 宮手 義和
学識経験者代表	松本 静毅	／ 高橋 眞司
地域住民代表	佐藤 彰二	／ 黒澤 淳子

「苦情解決第三者委員会」

高村 和江
矢作 淳

「内丸学園盛岡幼稚園」

理事長	坂本 洋	園長	津川 哲二
副園長	吉田 房子	指導保育教諭	佐々木 紫

○会議次第

1、開 会

2、委員会の方々のご紹介

3、挨拶 坂本理事長 松本委員長

4、報告と協議

(1) R6年度業務執行報告

○R5年度業務運営方針と業務執行報告

- ・R6年度運営方針①② ・R6年度運営の反省（成果と課題）
- ・幼稚園事業報告 … 一年間の保育の様子をパワーポイントで説明
- ・特色ある幼児教育振興事業について ・園内・園外の研修実施報告
- ・園からの情報発信（3月現在）

○子育て相談集計結果 ○ヒヤリハットと事故報告の集計結果と考察

○職場アンケートの集計結果と考察 ○職員自己評価の集計結果と考察

(2) R6年度業務運営方針並びに学級編成

- ・R6年度運営方針②④ ・R6年度学級編成及び園児数（4月予定）・R6年度定員

5、委員からの評価及び質問・感想等

>Aさん

本年の取り組み、子ども達の活動状況を伺いました。大変ご苦労されておりますが、町内会活動でも少子高齢化を感じている。園児数の推移はどうか？

>園長

国内人口動態で少子高齢化が顕著。県内でも少子化が進み園児減少である。当園の本年定員充足は、1号児は少なくなっているが、2、3号児は定員を満たしている。

>松本委員長

当園は、園バスがなく自主的に来る必要がある。官公庁に隣接という立地も影響がある。内丸メディカルセンターが移転することで、園児数の推移には注視が必要と感じている。長時間保育児が増加しているが、職員はシフト制。職員の情報共有をどのように行っているか。

>吉田副園長

幼稚園部、保育部それぞれで毎日打ち合わせを行って共有。シフト制で13時間対応が必要のため職員の勤務が一様でない。従って情報共有が認定こども園運営の鍵となっている。

>松本委員長

勤務シフトで休みを取っている職員に対する情報共有はどうしているか？

>吉田副園長

各学年に担任が複数人いるので、出勤者が打ち合わせに参加しそれぞれが伝え合うことが必要。また午睡中に職員会議を実施。全員揃うことは難しい状況で工夫が必要である。

>Bさん

引き渡し訓練について、釜石鶴住居保育園では、引き渡したことで被害にあったケースがあった。想定外のことも考えて取り組んでほしい。

野菜栽培 歯科医の立場から、生野菜を食べると、歯が綺麗になるので良いと思った。

殆どが1号児だった時代に子どもを通園させていた。園外保育等、保護者が手伝う機会がたくさんあった。本年事業で保育参加があった、他の子どもを見る機会は大切と感じる。

>理事長

引き渡し訓練 消防の査察が来た際、二次避難場所として仁王小指定であるが、そこまで安全に引率することこそ難しいのではないかと指摘あり、状況によって垂直避難が必要と考えている。その為に3日分の備蓄、毛布等を備えている。想定外のことを想定する必要があるご指摘頂いた。

>Cさん

アレルギー児に関するヒヤリハットについて エピペンの練習をしているか？

>佐々木指導保育教諭

これまでに数名、エピペンを預かる子がいた。現在の在園児では1名。実際使用した場面はない。全職員が研修し必ず練習用エピペンで練習をしている。

>Cさん

誤食・誤飲について 容器と中身が違うことによる誤飲というケースがある。要注意。

>Dさん

2人の子どもを通わせた。職員が全員子どものことを把握してくれているので安心している。早朝保育、一時預かりも利用しながら、育児、仕事をサポートしてもらった。連絡事項等、情報共有がなされており不安を感じることはなかった。今日は初めて本会に参加した。普段から、子どもたちの保育の為にたくさんの方が力を注いでくれていることを感じた。

>Eさん

毎日の教育・保育に取り組みながら、その他に行事や研修もしっかりとこなしている。

職員の先生たちは忙しい中、頑張っていることが容易に想像できる。

保育所勤務していた頃、保育参加がとても面白い行事だった。保育することの大変さや、他の子ども達の様子を見るいい機会となる。保護者の理解が進み、親が変わる機会となっていた。ぜひ継続して欲しいと思う。

>松本委員長

活動報告中で、保護者の保育参加行事は、親が我が子を客観視する機会となるように思われる。親が変わる気付きの良いきっかけになる。

>Fさん

学校職員も働き方改革が進んでいる。小学校側に架け橋プランの必要性を理解してもらわなければ後回しになる。今後の見通しはどうか？

>園長

架け橋プランの重要性は、大変貴重なご指摘で、各小学校との架け橋連携や協議は大切である。現実当園では、今年は卒園児が12校に就学する。12校全てと連携協議を図るには限界があるが、相互理解を深められるよう取り組んでいる段階。

今後、市教委の進め方、働き方改革への対応等、課題でもある。

>Bさん

卒園児の集いが5年生までということだったが、それ以上大きいお子さんが羨ましがっていた。卒園した子ども達は、盛岡幼稚園生活が懐かしい大切な場となっている。

>Jさん

単なる保育参観だけでなく、保護者自身が保育参加する試みは面白い取り組みだと思った。

6、令和7年度業務運営方針並びに学級編成について説明

- *職員各々が自己研鑽に努めていく。
- *寄付行為がR7年4月1日～新たになる。
- *誰でも通園制度 R8年度～当園でも実施していくことになる。
- *R8年度ECEQ実施に向けて取り組んでいく。
- *職員の多忙感の緩和に向けて一層の検討が必要。
- *少子化の中で、先々を見越し当園の特色を活かしていく。

7、まとめ評価

本日頂戴した貴重な意見を活かし、次年度の計画に取り入れ、より良い施設こども園経営を進めていく。微力ながら、次世代の日本を担う子どもたちの資質向上に取り組んでいく所存。

新年度は第117回目の入園式。伝統的な個性の尊重や行事を大事にしながら、これからも資質向上のため努力するのでご支援よろしく申し上げます。

IV 財務の内容（令和6年度）

1、資金収支計算書

収入の部		
科 目	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	8,884,645 円	7,376,673 円
寄付金収入	265,116 〃	273,108 〃
補助金収入	149,654,770 〃	162,353,100 〃
付随事業・収益事業収入	4,747,381 〃	4,635,611 〃
受取利息・配当金収入	2,788,704 〃	1,094,550 〃
雑収入	2,220,536 〃	2,873,437 〃
その他の収入	130,750,503 〃	212,903,104 〃
資金収入調整勘定	△9,418,750 〃	△15,859,000 〃
前年度繰越支払資金	37,419,992 〃	41,205,514 〃
収入の部合計	327,312,897 円	416,856,097 円
支出の部		
人件費支出	130,256,256 円	120,572,444 円
教育管理経費支出	27,037,949 〃	27,376,422 〃
借入金等返済・利息支出	0 〃	0 〃
施設・設備関係支出	213,939 〃	592,240 〃
資産運用支出	103,768,902 〃	185,698,221 〃
その他の支出	25,073,840 〃	25,942,700 〃
資金支出調整勘定	△243,503 〃	△967,890 〃
翌年度繰越支払資金	41,205,514 〃	57,641,951 〃
支出の部合計	327,312,897 円	416,856,097 円

2、貸借対照表

資産の部		
固定資産	404,030,916 円	404,752,999 円
流動資産	50,783,044 円	73,580,341 円
資産の部合計	454,813,960 円	478,333,340 円
負債の部		
固定負債	5,560,820 円	5,323,100 円
流動負債	871,833 円	1,636,397 円
負債の部合計	6,432,653 円	6,959,497 円
純資産の部		
基本金の部合計	332,016,050 円	332,730,195 円
繰越収支差額		
翌年度繰越収支差額	116,365,257 円	138,643,648 円
負債及び純資産の部合計	454,813,960 円	478,333,340 円

【注】 ・重要な会計方針の変更、該当事項なし。 ・減価償却額の累計額の合計：174,021,320 円

財産目録 (令和7年3月31日現在)

資産総額	金 478,333,340 円
内訳 (1)固定資産	金 404,752,999 円
(2)流動資産	金 73,580,341 円
負債総額	金 6,959,497 円
正味財産	金 471,373,843 円

1 資産

(1)固定資産	404,752,999 円
ア 建物	147,672,219 円
イ 構築物	2,068,915 円
ウ 教育林	4,284,279 円
エ 機器備品	3,631,825 円
オ 図書	2,312,457 円
カ 退職給与引当特定資産	4,750,000 円
キ 施設設備維持引当金	240,012,804 円
ク 出資金	20,500 円
(2)流動資産	73,580,341 円
ア 現金預金	57,641,951 円
イ 未収入金	15,859,000 円
ウ 前払金	79,390 円

2 負債

(1)固定負債	5,323,100 円
ア 長期未払金	573,100 円
イ 退職給与引当金	4,750,000 円
(1)流動負債	1,636,397 円
ア 未払金	1,576,220 円
イ 預り金	60,177 円